

② 産業管理外来種の適正飼養

外来種リストでは、産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系への影響がより小さい代替性を有するものがないため、利用において移出等の防止のための適切な管理が必要な外来種を「産業管理外来種」として指定しています。

産業管理外来種については、それぞれの種について「産業管理外来種の適正管理方針」を定め、移出防止の取り組みを進めます。

【環境部】【農林水産部】

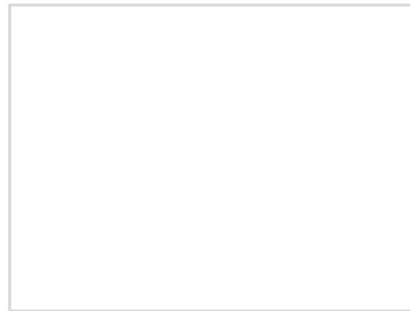
産業管理外来種リスト（2018年度版）

分類群	目	科	種名
昆虫類	ハチ	ミツバチ	セイヨウオオマルハナバチ
			クロマルハナバチ
			セイヨウミツバチ



※

セイヨウオオマルハナバチ



クロマルハナバチ



セイヨウミツバチ

※ 写真：環境省 外来種写真集 (<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

③ 条例等による規制

外来生物法では特定外来生物の飼育、栽培、保管及び運搬、野外へ放つ、植える及びまくこと等を禁止しています。外来種リストで示すとおり、本県では特定外来生物以外の外来種も生態系等へ大きな影響を与えることが懸念されており、対策が必要となっています。リストの中で特に危険性の高い種については、条例等による飼育や栽培等の制限を検討します。

【環境部】

2) 非意図的外来種への対策

① モニタリング

土砂搬入、輸入や国内物流における物品、梱包材や車両等への付着・混入、船体への付着などにより意図せず外来種が侵入する可能性があります。

これらの非意図的外来種に対しては、モニタリングにより侵入を予防することが重要です。特に外来種の侵入経路になる可能性の高い県外からの貨物船が利用する港湾、輸入物資が一次保管される保税蔵置場等において、定期的なモニタリング調査を実施します。また、環境省、税関、植物防疫所、動物検疫所、港湾・空港関係者、運輸関係者等の関連する機関と連携した情報収集を行います。

また、港湾等の侵入口を越えて県内に侵入した外来種については、県民や事業者等が発見することが想定されます。そのため、『(1) 1) 普及啓発』の取り組みにより、対策の必要な外来種を見つけた場合に速やかに情報提供を行うよう、周知を行います。

モニタリングにより、重点予防種等の外来種の侵入が確認された場合は、速やかに(3) 1) に示す初期防除を行います。

【環境部】

(3) 防除の推進

1) 早期発見と初期防除

① 早期発見・初期防除方針の整備

外来種リストでは、沖縄県内には未定着であり侵入した際の生態系への影響が大きい外来種を「重点予防種」として指定しています。重点予防種については侵入・定着を予防し、発見した場合は初期防除を行い、県内への侵入を防ぐ必要があります。

重点予防種については、それぞれの種について「早期発見・初期防除方針」を定め、侵入防止の取り組みを実施します。

【環境部】

重点予防種リスト（2018年度版）

分類群	目	科	種名
哺乳類	ネコ	アライグマ	アライグマ
爬虫類	カメ	カミツキガメ	カミツキガメ
昆虫類	ハチ	アリ	アルゼンチンアリ
			アカカミアリ
			ヒアリ
クモ類	クモ	ヒメグモ	セアカゴケグモ



アライグマ



カミツキガメ



アルゼンチンアリ



アカカミアリ



ヒアリ



セアカゴケグモ

※ 写真：環境省 外来種写真集 (<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

② 関係者との連携による緊急防除の検討

重点予防種の侵入が確認された場合、分布を拡大する前の段階で防除することが重要です。関係者と連携し、緊急的に防除が実施できる体制等について検討を行います。

【環境部】

2) 戦略的な防除の実施

外来種リストでは、沖縄県内に定着しており生態系への影響が大きいことから優先的に防除を実施する必要がある外来種を「重点対策種」として指定しています。最も優先順位が高い外来種として、すべての種について各主体がそれぞれの役割において防除を中心とした総合的な対策を実施します。

重点対策種については、それぞれの種について「防除計画」を定め、戦略的な防除を実施します。

【環境部】【保健医療部】【農林水産部】

重点対策種リスト (2018 年度版)

分類群	目	科	種名
哺乳類	ネコ	ネコ	ノネコ (イエネコの野生化したもの)
		マンダース	フィリマンダース
		イタチ	ニホンイタチ
		イヌ	ノイヌ (イヌの野生化したもの)
	ウシ	ウシ	ニホンイノシシ (イノブタを含む)
鳥類	キジ	キジ	コウライキジ
			インドクジャク
爬虫類	有鱗	イグアナ	グリーンアノール
		ナミヘビ	タイワンスジオ
		クサリヘビ	タイワンハブ
両生類	無尾	ヒキガエル	オオヒキガエル
昆虫類	コウチュウ	コガネムシ	サイカブト (タイワンカブト)
植物	-	キク	ツルヒヨドリ (ツルギク、ミカニア・ミクランサ)
			アメリカハマグルマ (ミツバハマグルマ)



ノネコ



ファイリマングース



ニホンイタチ



ノイヌ



ニホンイノシシ



コウライキジ



インドクジャク



グリーンアノール



タイワンスジオ



タイワンハブ



オオヒキガエル



サイカブト



アメリカハマグルマ



ツルヒヨドリ

重点対策種（2018年度版）の防除方針

重点対策種	侵入状況	防除方針の 카테고리
ノネコ	県内各地	方針 A 重要区域からの排除（やんばる地域）
ファイリマングース	3 島	方針 A 重要区域からの排除（やんばる地域）
ニホンイタチ	12 島	方針 A 重要区域からの排除
ノイヌ	県内各地	方針 A 重要区域からの排除（やんばる地域）
ニホンイノシシ	4 島	方針 A 重要区域からの排除（慶良間諸島）
コウライキジ	5 島	方針 C 拡散の防止（やんばる地域への拡散防止）
インドクジャク	7 島	方針 C 拡散の防止（西表島などへの拡散防止）
グリーンアノール	2 島	方針 C 拡散の防止（沖縄島中南部、座間味島からの拡散防止）
台湾ンスジオ	1 島	方針 C 拡散の防止（やんばる地域への拡散防止）
台湾ハブ	1 島	方針 C 拡散の防止（やんばる地域への拡散防止）
オオヒキガエル	3 島	方針 C 拡散の防止（石垣島、大東諸島からの拡散防止）
サイカブト	県内各地	方針 B 重要区域における低密度管理（大東諸島）
ソルヒヨドリ	4 島	方針 A 重要区域からの排除（やんばる地域・西表島）
アメリカハマグルマ	県内各地	方針 A 重要区域からの排除（希少植物生育地）

※ 侵入状況は、現在定着している島の数を示す

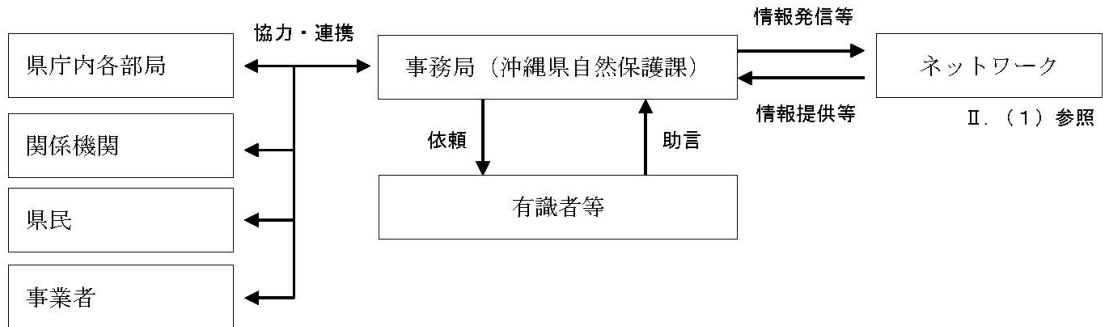
防除方針の 카테고리

카테고리	防除方針
方針 A 重要区域からの排除	広域に分布し、県内全域からの根絶が困難であることから、生物多様性保全上の重要な地域からの排除を目指して、捕獲や再侵入の防止等の防除を実施する
方針 B 重要区域における低密度管理	地域的な根絶が困難であることから、生物多様性保全上の重要な地域における低密度化を目指して、捕獲や再侵入の防止等の防除を実施する
方針 C 拡散の防止	他地域への拡散を防止することを目指して、意図的・非意図的な移動を防ぐための取り組みや捕獲による分布域での低密度化を実施する

Ⅲ. 計画の推進と見直し

(1) 計画の推進体制

行動計画を推進するため、沖縄県自然保護課を事務局として県庁内の各部署、関連機関、県民、事業者と協力しながら「Ⅱ. 外来種対策の行動計画」に示す取り組みを推進します。また、有識者等から助言をいただき、計画の推進状況の確認や見直しを行います。



行動計画の推進体制

(2) 計画の進捗管理

行動計画を確実に推進していくためには、計画で示した各取り組みの進捗状況を把握していくことが必要です。このため、下記の評価項目について、毎年の実施状況を確認します。

行動計画の進捗管理項目（対策基盤の整備）

評価項目		評価指標	
(1) 対策基盤の整備	1) 普及啓発	① 県民全般	<input type="checkbox"/> イベントへの出展数 <input type="checkbox"/> パンフレット等の配布数
		② 学校等	<input type="checkbox"/> 教育ツールの配布数 <input type="checkbox"/> 教育ツールの活用状況
		③ ペットショップ・園芸ショップ等	<input type="checkbox"/> 協力依頼を行った店舗数 <input type="checkbox"/> チラシ・ポスターの配布数
		④ 農林水産業従事者	<input type="checkbox"/> 外来種対策が含まれた普及指導数
	2) 情報収集・情報発信	① ネットワークの構築	<input type="checkbox"/> ネットワーク参加団体数 <input type="checkbox"/> ネットワークへの情報発信数
		② 分布情報の把握	<input type="checkbox"/> 収集を行った調査結果の件数
		③ 外来種リストの更新	<input type="checkbox"/> 外来種リストの更新の有無
		④ 情報発信	<input type="checkbox"/> プレスリリース数 <input type="checkbox"/> ホームページの更新の有無
	3) 人材育成・技術開発	① 人材育成	<input type="checkbox"/> 講習等の人材育成活動件数
		② 技術開発	<input type="checkbox"/> 新規防除技術の有無

行動計画の進捗管理項目（侵入の防止及び防除の推進）

評価項目		評価指標	
(2) 侵入の防止 (予防)	1) 意図的外来種への対策	① 普及啓発	※ (1) 1) 及び 2) を指標とする
		② 産業管理外来種の適正飼養	※ 各産業管理外来種の適正管理方針に記載
		③ 条例等による規制	□ 条例等の規制に関する検討の有無
	2) 非意図的外来種への対策	① モニタリング	□ 港湾・保税蔵置場周辺等におけるモニタリング調査の実施有無
(3) 防除の推進	1) 早期発見と初期防除	① モニタリング・初期防除方針の整備	※ 各重点予防種の早期発見・早期防除方針に記載
		② 緊急防除の検討	□ 緊急防除体制の検討の有無
	2) 戦略的な防除の実施	※ 各重点対策種の防除計画に記載	

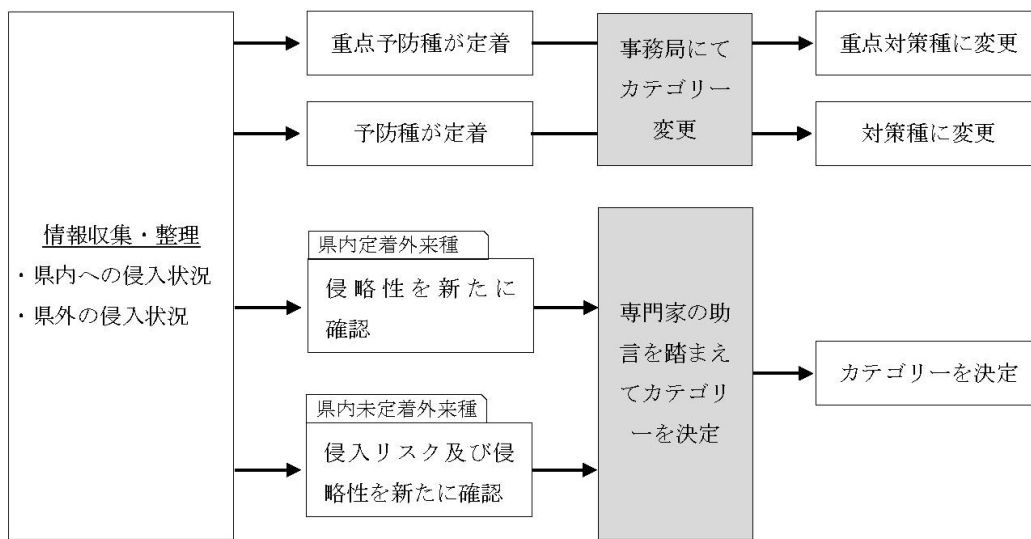
(3) 計画の見直し

グローバル化が進む今日では、新たな外来種が侵入する可能性が常に存在しています。また、過去に侵入した外来種が分布を拡大し、生態系等への影響が看過できない状況になる可能性もあります。このため、対策の効果を維持するためには順応的に計画を見直していく必要があります。

下記の表に示す時期を目安に、行動計画及びその他の計画等の進捗状況に応じた見直しを行います。また、次ページのフローに沿って、外来種の侵入状況等に応じた外来種リストの更新・見直しを行います。

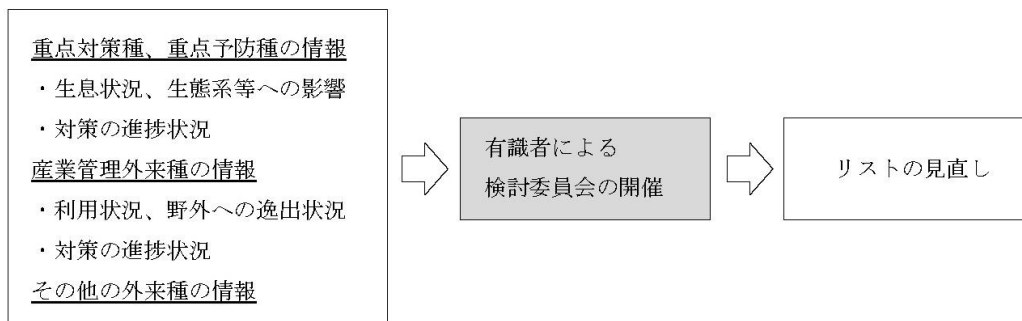
各計画等の見直し時期

計画等の種類		期間	中間評価	見直し時期
外来種対策行動計画		5年間	2022年度	2024年度
外来種リスト	更新	毎年	—	—
	見直し	3年間	—	2021年度
重点対策種 防除計画		各計画に記載された期間		
重点予防種 早期発見・初期防除方針		5年間	2022年度	2024年度
産業管理外来種の適正管理方針		5年間	2022年度	2024年度
外来植物の適正利用方針		5年間	2022年度	2024年度



※ 上記のフローに該当しない侵略的な外来種が確認された場合は、専門家の助言等を踏まえて順応的にリストの更新を行います。

外来種リストの更新フロー（毎年）



外来種リストの見直しフロー（3年毎）